

第4次堺市スポーツ推進プラン

令和8年〇月
堺市

目 次

第1章 計画の基本事項	1
1 計画策定の趣旨・目的	2
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	3
第2章 計画の将来像	4
1 計画の将来像	5
2 基本理念	5
第3章 スポーツ推進の現状と課題	6
1 国の関連施策	7
2 前計画の振り返り	7
3 堺市のスポーツ実施状況と課題	9
4 堺市が有するスポーツ資源と強み	13
第4章 施策展開	15
1 施策展開の方向性	16
2 目標指標	18
3 基本方針／施策推進	22
第5章 計画の推進体制	32
1 計画の推進	33
2 計画の点検・評価	33

第 1 章 計画の基本事項

-
- 1 計画策定の趣旨・目的
 - 2 計画の位置づけ
 - 3 計画の期間
-

1 計画策定の趣旨・目的

スポーツは、心身の健全な発達を促し、健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものです。市民がスポーツに親しむことは、健康寿命の延伸や体力向上、人と人との交流を通じた地域社会の活性化などにつながります。

本市では、これまでもスポーツ推進に関する計画に基づき、市民のスポーツ活動を支援し、一定の成果を得ています。しかし、人口減少・高齢化、ライフスタイルの多様化、共生社会の実現に向けた意識の高まりなど、社会情勢は絶えず変化しています。また、市民がスポーツに関する活動に参画することのできる機会や環境の多様性が、これまで以上に求められています。

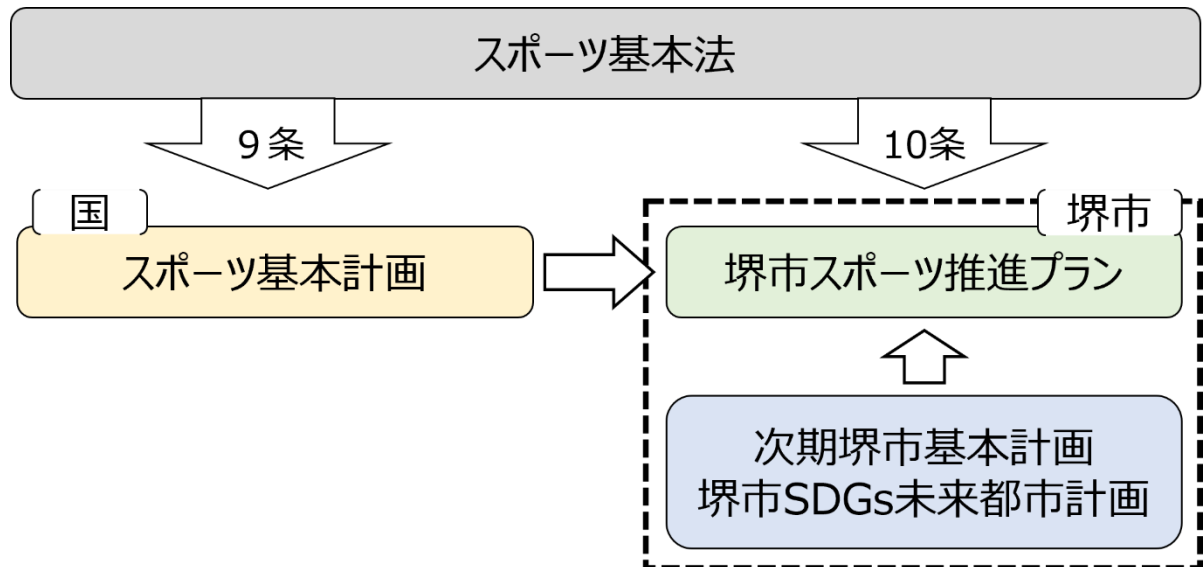
このような背景から、これまでの取組の成果と課題を検証し、社会の変化や新たな市民ニーズに対応したスポーツ推進を総合的かつ計画的に進めるため、本プランを策定します。

策定に当たっては、今後も市民がスポーツや運動をより身近に感じ、健康増進に積極的に取り組めるよう、一定の成果を得ている「第3次堺市スポーツ推進プラン」（以下、第3次プラン）の基本理念や基本方針等の体系を踏襲します。そのうえで、国の動向や社会的潮流、本市の現状を踏まえながら、新たな視点に基づく取組を本プランに追加します。

また、本プランは、市民、スポーツ団体、事業者、行政など、様々な主体が連携・協働し、基本理念である「生涯にわたる多彩なスポーティブライフの実現」をめざすための新たな指針となるものです。

2 計画の位置づけ

本プランは、スポーツ基本法並びに国のスポーツ政策を踏まえ、市政運営の大方針である「次期堺市基本計画」や「堺市SDGs未来都市計画」などの本市関連計画と連携しながら、堺市独自のスポーツ施策の方向性を示すものと位置づけます。



3 計画の期間

本プランの計画期間は、令和8年4月1日から令和13年3月31日までの5年間とします。

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
第3次堺市スポーツ推進プラン	第4次堺市スポーツ推進プラン				
堺市基本計画 2025	次期堺市基本計画				
(国) 第3期スポーツ基本計画					

第2章 計画の将来像

1 計画の将来像

2 基本理念

1 計画の将来像

本プランでは、市民それぞれが、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、生涯にわたってスポーツを楽しみ、その価値を享受できる都市を将来像とします。スポーツを通じて人々がつながり、健康で心豊かな生活を送ることで、都市全体が活力にあふれ、未来へと発展するような地域社会を市民と実現します。

2 基本理念

本プランは、上記の将来像を実現するため、前プランに引き続き「生涯にわたる多彩なスポーティブライフの実現～スポーツでライフスタイルを健康的で豊かにしよう～」を基本理念とします。

「スポーティブライフ」とは、競技スポーツだけでなく、健康のための運動やレクリエーション、散歩や体操といった日々の身体活動まで、広く生活の中にスポーツや運動が溶け込んでいる状態をさします。こどもから高齢者まで、また、トップレベルをめざす人から健康増進を目的とする人まで、すべての市民がそれぞれのライフステージや関心、体力に応じて、自分らしいスタイルでスポーツ・運動に親しめる環境を整え、市民生活の質の向上をめざします。

生涯にわたる多彩なスポーティブライフの実現
～スポーツでライフスタイルを健康的で豊かにしよう～

第3章 スポーツ推進の現状と課題

-
- 1 国の関連施策
 - 2 前計画の振り返り
 - 3 堺市のスポーツ実施状況と課題
 - 4 堺市が有するスポーツ資源と強み
-

1 国の関連施策

スポーツ庁では、「第3期スポーツ基本計画（計画期間：令和4年度～令和8年度）」をスポーツ推進の中核に据えています。この計画では、総合的かつ計画的に取り組む12の施策を掲げ、地方自治体に関連する施策の中には、「多様な主体におけるスポーツの機会創出」、「スポーツによる地方創生、まちづくり」、「スポーツによる健康増進」などがあります。

これらの施策により、地域や学校におけるこども・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上、武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進などが図られます。

また、Sport in Life の理念に基づき、毎日の生活の中でスポーツに親しむ時間や環境を確保し、「楽しさ」や「喜び」といったスポーツの価値を認識する人を増やすことをめざしています。

本市としても、「第3期スポーツ基本計画」の大きな方向性を踏まえた施策展開が求められます。

2 前計画の振り返り

第3次プラン（計画期間：令和3年度～令和7年度）では、「生涯にわたる多彩なスポーツライフの実現」を基本理念に掲げ、2つの目標を定めて施策を推進しました。

目標の1つである「スポーツ・運動習慣者割合（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）」は基本方針に「スポーツ・運動習慣の充実」を掲げ表1の取組を実施することで、目標値50%を上回る成果を達成しました。

2つめの目標である「市内体育館等スポーツ施設利用者数」は基本方針に「堺のスポーツ魅力の創出」を掲げ表2の取組を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症による外出抑制や施設の臨時休館等により目標値に到達しませんでした。

表 1 基本方針①「スポーツ・運動習慣の充実」の主な取組と今後の課題

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ・運動習慣化推進事業 ○家族で参加できるスポーツイベントの開催 ○スポーツイベント情報や施設情報の発信 ○スポーツ施設の指定管理者による各種スポーツ教室の実施 ○市民参加型の大規模イベント（市民オリンピック、市民マラソン等）の開催
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○運動習慣者割合が低い層（子育て世代・ビジネスパーソン）への働きかけ ○若年層向けの取組 ○市民のスポーツ・運動のきっかけとなる、スポーツイベント・教室の参加者を増やすための情報発信

表 2 基本方針②「堺のスポーツ魅力の創出」の主な取組と今後の課題

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○大浜だいしんアリーナ・だいしん大浜武道館のリニューアルオープン ○大規模スポーツ施設における全国大会の実施 ○指定管理者による民間ノウハウを活用した自主事業の実施 ○市及び指定管理者の公式SNSを活用した情報発信
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで運動・スポーツをする機会のない人へのスポーツ施設の利用促進 ○スポーツ施設の平日利用率の向上に向けた取組 ○指定管理者と連携した施設PRの実施 ○老朽化する施設の維持管理

3 堺市のスポーツ実施状況と課題

アンケートの内容

本プランの策定に当たり、今後のスポーツ推進施策を考える上での基礎資料とすることを目的に、令和7年4月30日から5月16日にかけて「堺市民のスポーツに関する市民意識調査」を実施しました。調査は15歳以上の市民5,000名を対象に行い、2,062件（有効回答率41.2%）の回答を得ました。

① 子育て世代（30～49歳）の運動習慣者割合が低い

市民意識調査の結果、1回30分以上の運動を週2回以上行う「スポーツ・運動習慣者」の割合が、30～49歳の子育て世代において46.6%と全年代で最も低いことが明らかになりました。この世代がスポーツを行わない理由としては、「忙しくて時間がない」という回答に加え、「育児が忙しいから」（15.0%）が他の年代と比較して高く、仕事と子育て等が大きな要因です。特に未就学児から中学生のこどもを持つ世帯では、「忙しくて時間がない」（40.0～53.2%）と「育児が忙しい」（6.4～31.4%）が二大要因です。

その一方で、この世代は「これまで以上に運動やスポーツをしたい」という回答が36.7%と全年代で最も高く、運動への意欲は非常に旺盛です。しかし、同時に「したいと思うが、今後できないと思う」と感じている層も多く、「運動したい」という高い意欲と、「時間がない」という現実との間に大きなギャップを抱えている実態を確認できました。

（15）この1年間に1日30分以上の運動やスポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。	週に2日以上 （年101日以上）	週に1日以上 （年51日～100日）	月に1～3日 （年12日～50日）	3か月に1～2日（年4日～11日）	年に1～3日	実施していない	わからない
18歳未満（n=53）	79.2%	3.8%	5.7%	3.8%	1.9%	0.0%	5.7%
18歳～29歳（n=169）	60.4%	11.2%	10.7%	5.9%	3.6%	2.4%	5.9%
30歳～49歳（n=367）	46.6%	18.0%	15.5%	6.0%	7.6%	2.7%	3.5%
50歳～59歳（n=348）	53.7%	17.0%	17.0%	5.2%	2.9%	1.7%	2.6%
60歳以上（n=741）	72.2%	11.1%	7.3%	3.2%	1.1%	3.6%	1.5%
合計（n=1678）	61.8%	13.6%	11.4%	4.5%	3.2%	2.8%	2.7%

（令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問15」より）

(12) 運動やスポーツをしなかった理由は何ですか。	忙しくて時間がないから	育児が忙しいから	病気やけがをしているから	体力が衰えたから	お金に余裕がないから	運動・スポーツが嫌いだから	面倒くさいから	生活や仕事で体を動かしているから	機会がなかったから	特に理由はない	その他
18歳未満 (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
18歳～29歳 (n=15)	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	26.7%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%
30歳～49歳 (n=60)	26.7%	15.0%	3.3%	0.0%	5.0%	13.3%	13.3%	3.3%	8.3%	8.3%	3.3%
50歳～59歳 (n=60)	25.0%	0.0%	6.7%	5.0%	3.3%	11.7%	10.0%	11.7%	10.0%	10.0%	6.7%
60歳以上 (n=129)	7.8%	0.0%	17.1%	24.0%	3.1%	0.8%	7.0%	15.5%	3.1%	12.4%	9.3%
合計 (n=268)	16.8%	4.1%	10.4%	12.7%	3.4%	7.1%	10.4%	11.2%	6.7%	10.4%	6.7%

(令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問12」より)

(16) この1年間で1日30分以上の運動やスポーツを週2日以上実施しなかった最も大きな理由は何ですか。	忙しくて時間がないから	育児が忙しいから	病気やけがをしているから	体力が衰えたから	場所や施設がないから	お金に余裕がないから	面倒くさいから	生活や仕事で体を動かしているから	機会がなかったから	特に理由はない	その他
就学前(0～6歳)の家族がいる (n=70)	40.0%	31.4%	0.0%	0.0%	1.4%	2.9%	8.6%	1.4%	5.7%	4.3%	4.3%
小学生の家族がいる (n=93)	46.2%	15.1%	0.0%	0.0%	1.1%	3.2%	14.0%	3.2%	3.2%	7.5%	6.5%
中学生の家族がいる (n=47)	53.2%	6.4%	4.3%	0.0%	2.1%	0.0%	12.8%	8.5%	2.1%	6.4%	4.3%
65～74歳の家族がいる (n=92)	17.4%	1.1%	3.3%	8.7%	5.4%	5.4%	13.0%	6.5%	6.5%	17.4%	15.2%
75歳以上の家族がいる (n=81)	29.6%	0.0%	6.2%	9.9%	2.5%	1.2%	11.1%	2.5%	6.2%	24.7%	6.2%
上記以外の家族がいる (n=323)	35.3%	2.2%	4.0%	5.6%	1.5%	1.9%	12.1%	5.0%	6.5%	14.6%	11.5%

(令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問16」より)

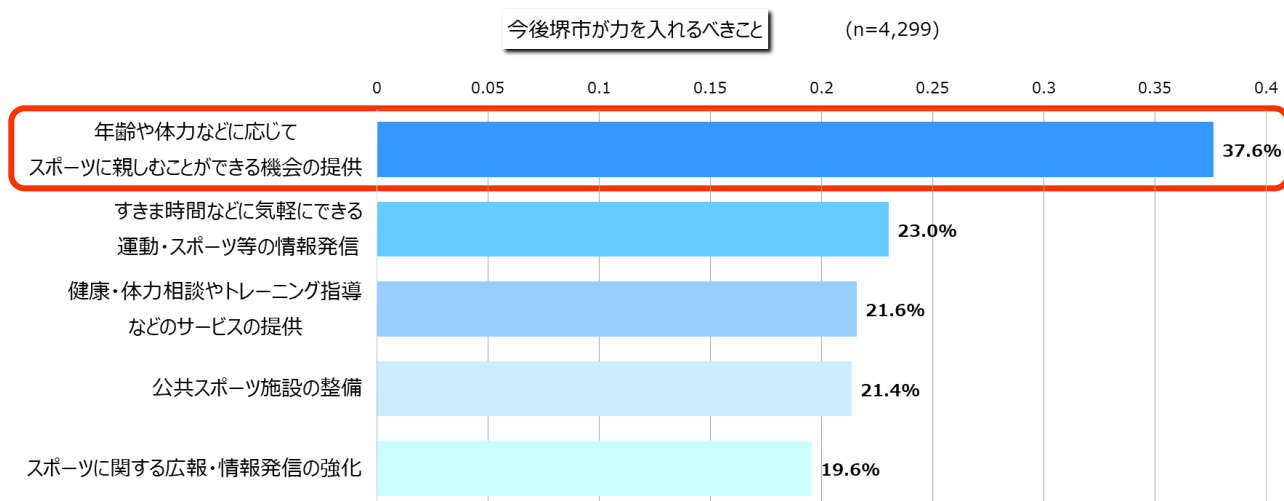
(22) 今後の運動やスポーツの実施について、どのように思いますか。	これまで以上にもっと運動やスポーツをしたい	これまでと同じ程度の運動やスポーツを続けたい	これまでではしていないが、新たに運動やスポーツをはじめたい	現在運動やスポーツはしたいと思うが、今後できないと思う	現在運動やスポーツをしているが、やめようと思う	その他
18歳未満 (n=57)	29.8%	52.6%	3.5%	8.8%	3.5%	1.8%
18歳～29歳 (n=179)	36.3%	39.7%	11.2%	12.8%	0.0%	0.0%
30歳～49歳 (n=422)	36.7%	34.4%	11.6%	14.2%	0.2%	2.8%
50歳～59歳 (n=402)	26.1%	42.0%	15.4%	13.7%	0.0%	2.7%
60歳以上 (n=800)	10.1%	62.8%	7.9%	15.9%	0.1%	3.3%
合計 (n=1860)	22.7%	49.3%	10.5%	14.5%	0.2%	2.7%

(令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問22」より)

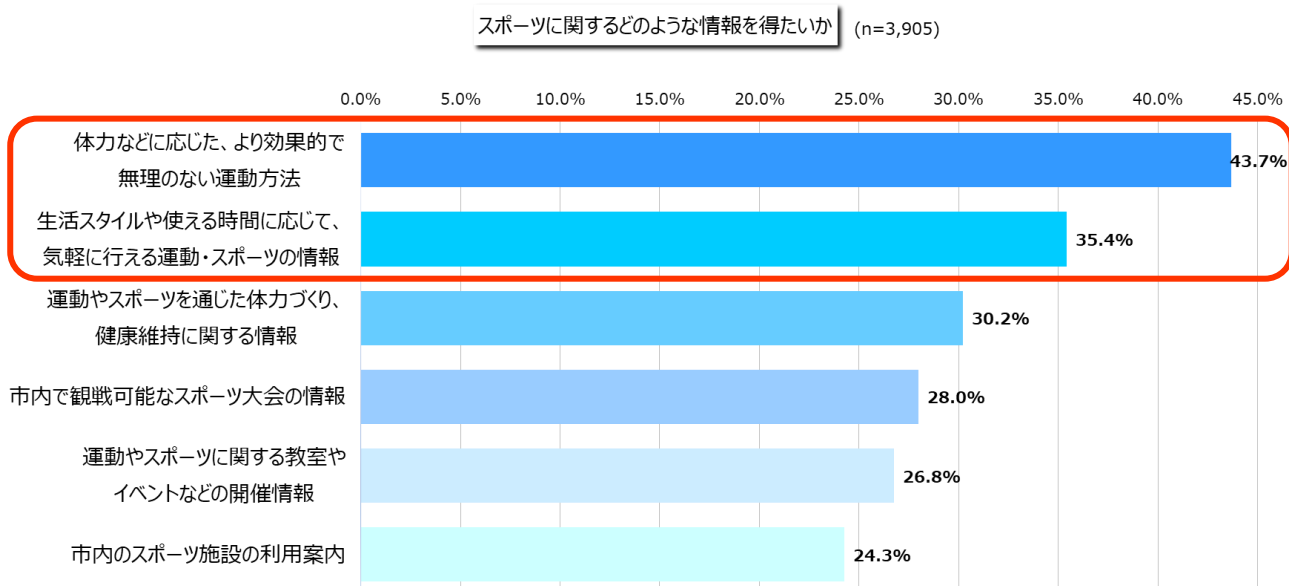
② ライフスタイル、ライフステージに応じた情報発信が必要

調査では、今後の運動・スポーツ実施意向について、8割を超える市民が「続けたい」「もっとしたい」「新たに始めたい」と前向きに回答しており、スポーツ活動への潜在的なニーズが極めて高いことが示されました。

この高い意欲を実際の行動へとつなげるため、画一的な機会提供ではなく、個々の状況に合わせた支援が必要です。スポーツの推進のために、力を入れるべきこととして最も多かった回答は、「年齢や体力などに応じてスポーツに親しむことができる機会の提供」（37.6%）でした。また、今後得たい情報としては、「体力などに応じた、より効果的で無理のない、運動方法」（43.7%）が最も多く、次いで「生活スタイルや使える時間に応じて、気軽に行える運動・スポーツの情報」（35.4%）が挙げられました。これらの結果から、自身の体力レベルや生活リズムに合わせた情報や機会を求めていることがうかがえます。



(令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問35」より一部抜粋)

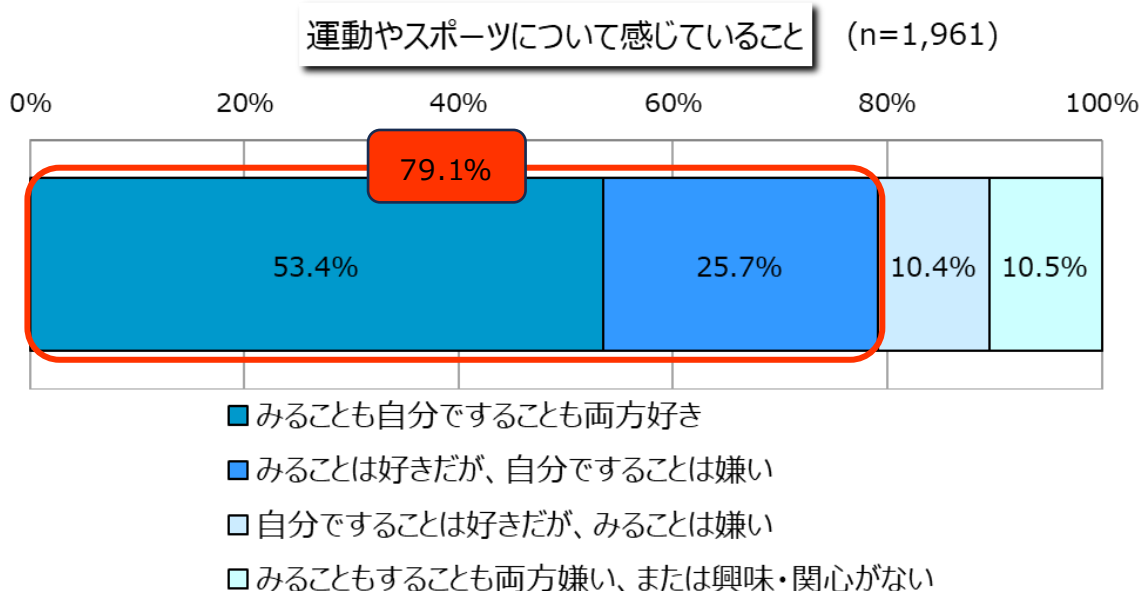


(令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問29」より一部抜粋)

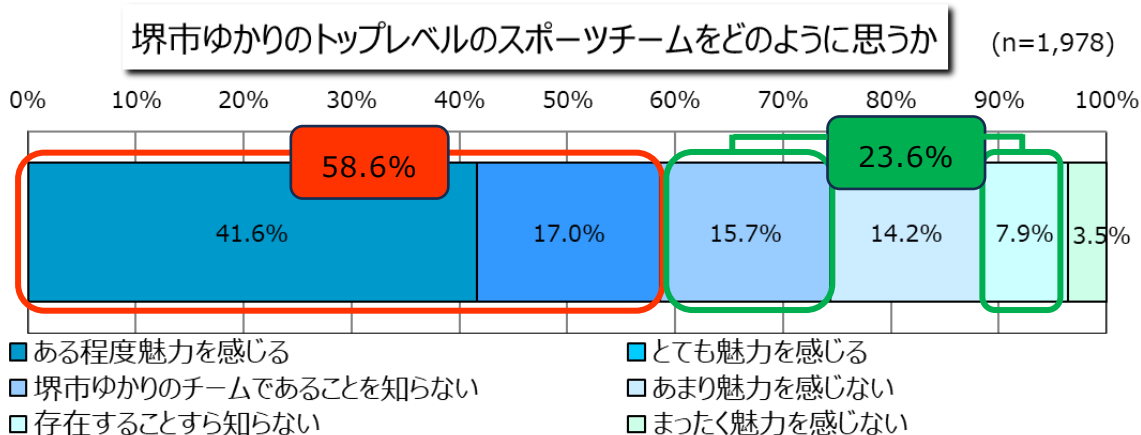
③ 市ゆかりのトップレベルチームの魅力と市民からの期待

スポーツへのかかわり方として、「みること（観戦）も自分ですること（実践）も両方好き」（53.4%）が過半数を占め、観戦のみを好む層と合わせると79.1%がスポーツ観戦に好意的であり、重要な楽しみの1つであることが分かります。

中でも、堺市にゆかりのあるトップレベルチームに対しては、「とても魅力を感じる」（17.0%）と「ある程度魅力を感じる」（41.6%）を合わせて58.6%の市民が魅力を感じています。チームに期待することとしては、より身近に関われる機会を望む声が多く、「優待観戦イベントの実施」や「市民向けのふれあいイベントなどの実施」が上位を占めました。これらのチームの存在は、市民のスポーツへの関心を高め、地域への愛着と誇りを育む上で大きな強みであると言えます。一方で、チームの存在や堺市との関連性を「知らない」市民も23.6%存在しており、認知度向上が今後の課題です。



（令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問24」より）



（令和7年「堺市民のスポーツに関する市民意識調査報告書 問26」より）

4 堺市が有するスポーツ資源と強み

(1) 大規模スポーツ施設

本市は、スポーツ推進における大きな強みとして、多彩な大規模スポーツ施設を有しています。サッカー・ナショナルトレーニングセンターとして、国内最大級の施設規模を誇り、サッカー日本代表などの公開練習が開催される「J-GREEN堺」をはじめ、日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲームなどが開催される南大阪最大規模のアリーナと武道館を備えた「大浜だいしんアリーナ・だいしん大浜武道館」や、プロ野球の2軍戦や全国高等学校野球選手権大阪大会等も開催される「くら寿司スタジアム堺」などが挙げられます。

これらの充実した施設を拠点として、様々な競技の全国大会が実施されており、トップレベルのスポーツに触れる機会を創出しています。こうした質の高い施設は、本市のスポーツの魅力と価値を高める上で、不可欠な資源となっています。

写真・イラスト等追加予定

(2) スポーツイベント

本市では、歴史ある大規模なスポーツイベントが根付いています。

その代表格が、各校区の代表選手が様々な競技で競い合い、地域の連帯感を育む生涯スポーツの祭典「堺市民オリンピック」です。市民参加型のイベントは、単なる競技の場にとどまらず、市民の健康増進やスポーツを通じた交流を促進する貴重な機会となっており、約半世紀にわたり開催されています。市民に愛され、都市の活力創出に貢献してきたこれらの伝統的なイベントは、本市のスポーツ推進における大きな財産です。

(3) スポーツ団体

本市には、市民の多様なスポーツ活動を支える、地域に根差したスポーツ団体が数多く存在しています。スポーツの普及振興と競技力の向上を図る「堺市スポーツ協会」（29種目32団体）やこどもたちの健全な育成を担う「堺市スポーツ少年団」（9種目80団体）をはじめ、総合的な種目を扱う地域のスポーツクラブなど、その活動は多岐にわたります。

これらの団体は、市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ための最も身近な受け皿として、長年にわたり地域のスポーツ振興の中核を担ってきました。熱意ある指導者やボランティアに支えられたこれらの団体の活発な活動は、市民の生涯にわたるスポーティブライフを実現する上で不可欠な、本市の貴重な財産です。



写真・イラスト等追加予定

第4章 施策展開

-
- 1 施策展開の方向性
 - 2 目標指標
 - 3 基本方針／施策推進
-

1 施策展開の方向性

(1) 改定に向けた新たな視点

「第4次堺市スポーツ推進プラン」の策定に当たっては、第3次プランの成果を継承しつつ、新たな社会の潮流や市民ニーズに対応するための施策の柱を構築します。

第3次プランは、「スポーツ・運動習慣者割合」の目標値を達成するなどの成果を上げており、その基本理念や基本方針の体系は市民のスポーツ・運動習慣の定着に有効であったと評価できます。そのため、本プランにおいてもこの基本的な考え方を踏襲します。

その上で、市民意識調査で明らかになった課題や、国の動向などを注視しながら、新たに以下の3つの視点を施策の柱として重点的に盛り込みます。

(2) 新たな視点

●年齢や体力の変化に応じたスポーツ・運動機会の提供及び情報発信

仕事や育児で多忙な世代に向けた「すきま時間」にできるスポーツ・運動や、高齢者向けの継続しやすいスポーツ・運動を推進します。

●スポーツツーリズムの推進

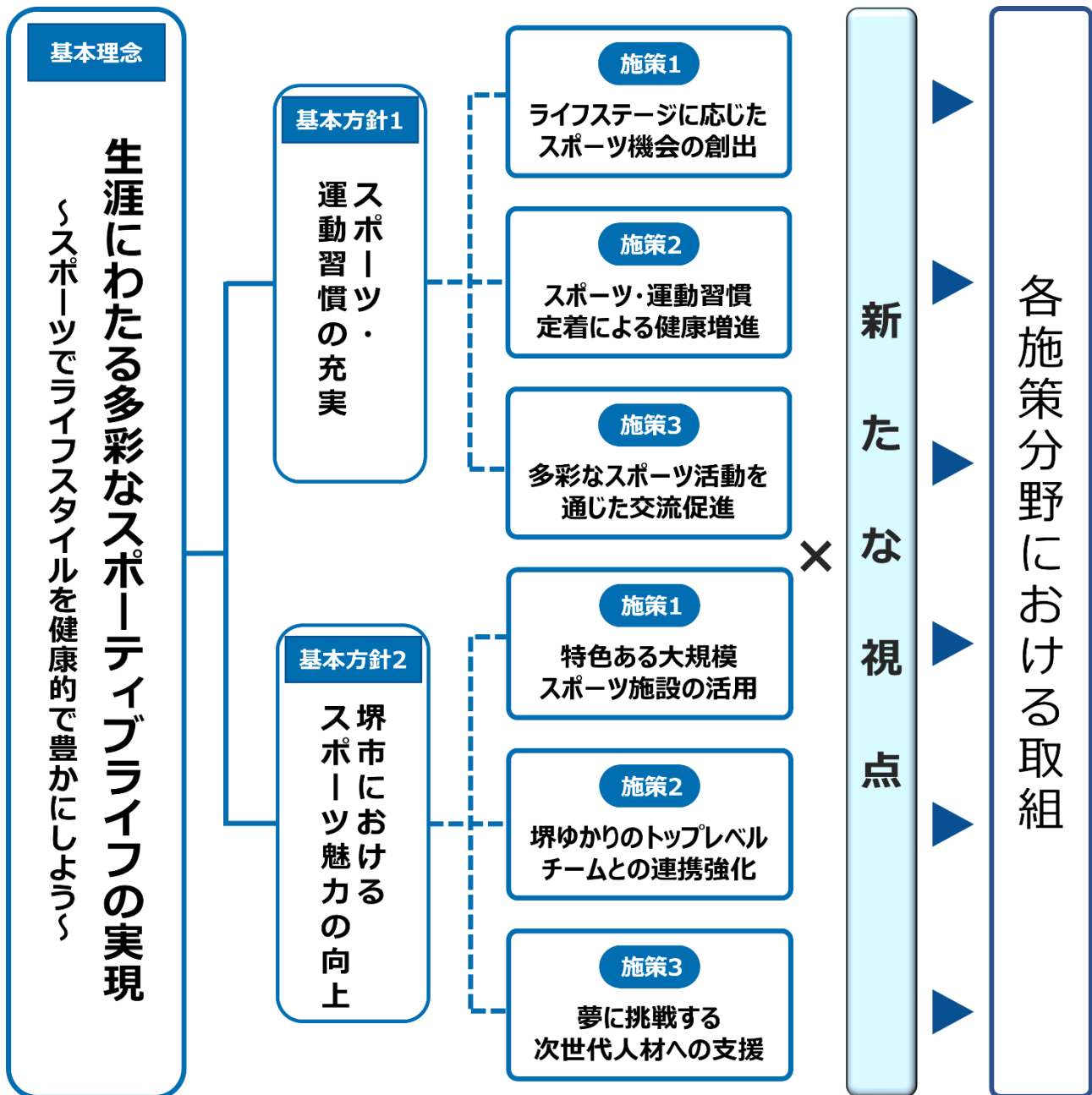
市にゆかりのあるトップレベルチームの観戦ツアーなどを企画し、市外からの誘客と地域経済の活性化を図ります。

●アーバンスポーツの普及拡大

オリンピック種目としても注目されるスケートボードやブレイキンなどを通じ、若年層のスポーツ・運動への関心を高めます。

これらの新たな視点を既存の施策に組み合わせることで、より多くの市民のライフスタイルを豊かにするスポーツ推進をめざします。

本プランの体系図



2 目標指標

本プランの着実な推進、成果の客観的な評価のために、4つの目標指標を設定します。

目標指標 1 スポーツ・運動習慣者割合（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）

第3次プランに引き続き、スポーツ・運動習慣者割合（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）を計画全体の取組の最終的なアウトカム指標として設定します。

厚生労働省では、運動習慣者を「週2回以上、1回30分以上、1年以上、運動を行う者」と定義し、健康増進には、週2回以上の運動習慣が効果的とされているため、本市では、「週2回以上のスポーツ・運動を行う者」を指標としています。また、10分程度の運動を1日に数回行うことでも健康への効果が期待できるとされており、1日のうちに複数回に分けて合計30分以上のスポーツ・運動を週2日以上行う場合も運動習慣者に含むものとします。

目標①

スポーツ・運動習慣者割合(※) (1回30分以上の運動を週2回以上行う者)

(令和6年度)

56.3%

(令和12年度)

70.0%

(※) 1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週2回以上している場合も含む。

<目標値について>

スポーツ庁は、「日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会の構築」をめざし、成人の「週1回以上」のスポーツ実施率70%を目標にしています。

本プランでは、「生涯にわたる多彩なスポーティブライフの実現」に向け、「市民がスポーツ・運動を身近なものとして親しみ、豊かで健やかな生活を過ごせること」をあるべき姿としています。本市では、国の「週1回以上」を上回る「週2回以上」のスポーツ・運動習慣者の割合を目標指標とし、国の目標値を参考に、70.0%を目標値に設定します。

スポーツ・運動頻度の低い層への取組強化に加え、計画期間中に開催される「ワールドマスタースゲームズ 2027 関西」などの国際スポーツ大会に伴うスポーツへの関心の機運醸成による押上げ効果を見込み、年平均約2.3%の向上をめざします。

目標指標 2 スポーツ・運動を週1回以上行う者の割合（1回30分以上の運動を週1回以上行う者）

スポーツ庁が策定した「第3期スポーツ基本計画」では、スポーツ実施率の指標を「週1回以上の運動を実施する者」と定めています。この指標は、スポーツ・運動習慣の定着に至る前段階としての運動実施の要因や、運動への関心・意欲の醸成を図る上で重要な役割を果たすものです。

これを踏まえて、本市においても、目標①に加え、スポーツ・運動を実施する市民の裾野の広がりを確認するための指標を設定します。また、目標①と同様に、1日のうちに複数回に分けて合計30分以上の運動を週1日以上行う場合も運動習慣者に含みます。

目標②

スポーツ・運動を週1回以上行う者の割合(※) (1回30分以上の運動を週1回以上行う者)

(令和6年度)

63.9%

(令和12年度)

75.0%

(※) 1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週1回以上している場合も含む。

<目標値について>

月に数回しか運動をしない層やほとんど運動をしない層に対し、気軽にスポーツ・運動を実施できる機会の提供や情報発信をすることで、年平均約2.0%の向上をめざします。

写真・イラスト等追加予定

目標指標3 子育て世代におけるスポーツ・運動習慣者割合（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）

令和7年5月に実施した「堺市民のスポーツに関する市民意識調査」において、子育て世代の30歳～49歳のスポーツ・運動習慣者割合（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）が他の年代層と比較して、低い水準であることが明らかになりました。

目標①を達成するためには、子育て世代のスポーツ・運動習慣者割合の引き上げが必要不可欠です。本プランでは、子育て世代を重点ターゲット層に位置づけ、スポーツ・運動習慣者割合の向上を指標として設定します。

目標③

子育て世代におけるスポーツ・運動習慣者割合^(※) （1回30分以上の運動を週2回以上行う者）

（令和6年度）

48.6%

（令和12年度）

65.0%

（※）1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週2回以上している場合も含む。

<目標値について>

子育て世代やビジネスパーソンなど、運動をするための時間を確保しにくい年齢層に対し、日常生活の「すきま時間」を活用した運動や、通勤中やショッピング中にできる「ながら」運動を推進します。さらに、親子で参加できるスポーツイベントやスポーツ教室等を実施し、家庭内でのスポーツ・運動習慣の定着や健康意識の向上を図ることで、年平均約2.7%の向上をめざします。

写真・イラスト等追加予定

目標指標 4 大規模スポーツ施設利用者数

近年、スポーツを取り巻く環境は大きく変化し、スポーツへの関わり方も「する」だけでなく、「みる」「ささえる」といった多様な形へと広がっています。

特に「みる」スポーツは、地域の賑わい創出や都市の魅力向上、交流人口の増加など、幅広い効果をもたらす重要な要素です。

こうした背景をふまえ、本市が誇る大規模スポーツ施設であり、大規模大会やイベントが多数開催されている J-GREEN 堺、大浜だいしんアリーナ・だいしん大浜武道館及びくら寿司スタジアム堺では、競技者としての利用者の増加に加え、観戦を目的とした利用者の増加を図ることで、競技者だけでなく幅広い層がスポーツに関心を持つことができる環境の実現を図ります。さらに平日の施設利用率を向上させ、休日に限らず日常的に多くの利用者が施設を訪れ、気軽にスポーツに触れる機会を持つことができる状況の実現をめざします。これらの市民のスポーツへの関心・接点の広がりを把握するための指標として、大規模スポーツ施設利用者数を設定します。

目標④

大規模スポーツ施設利用者数

(令和6年度)

95万人

(計画期間中)

100万人

<目標達成に向けて>

大規模スポーツ施設で開催されている全国大会や日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲーム等のスポーツイベントの機会を捉えて、観戦機会の充実や広報の強化を図ることで、施設利用者数の増加につなげます。また、「する」スポーツの利用促進とあわせて、「みる」スポーツの魅力を発信し、大規模スポーツ施設の更なる活用をめざします。

3 基本方針／施策推進

基本理念の実現に向け、2つの基本方針により、本市におけるスポーツの推進に取り組みます。

基本方針 1

スポーツ・運動習慣の充実

スポーツ・運動の実施を通じて、体力向上や健康寿命の延伸などを図るため、こどもから高齢者までの幅広い世代に対し、新たな視点の「年齢や体力の変化に応じたスポーツ・運動機会の提供及び情報発信」を加えて、ライフステージに応じたスポーツ・運動習慣を推進します。

また、スポーツ・運動を身近な場所で気軽に行う機会を創出するため、既存の取組に新たな視点の「アーバンスポーツの普及拡大」を加え、スポーツ・運動習慣の充実をめざします。

年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が身近にスポーツ・運動に親しめる環境を整備し、多くの市民がスポーツ・運動活動に参加できるきっかけを作り、若者や高齢者、障害者などが互いに支えあう共生社会の実現をめざします。

写真・イラスト等追加予定

SDGs



(1) ビジネスパーソンや子育て世代のスポーツ・運動の推進

ビジネスパーソンや子育て世代など、日常生活の中で運動をするための時間を確保しにくい層に対し、映像やリモート配信による自宅でできるスポーツ・運動の紹介など、体力やライフスタイルに応じた情報発信を行います。日々の生活における「すきま時間」を活用した運動や、通勤中やショッピング中にできる「ながら」運動の推進に取り組みます。

ビジネスパーソンが参加しやすい平日の夜間や休日に、スポーツ教室や親子で参加できるスポーツイベント等を開催することにより、家庭内でのスポーツ・運動習慣の定着を図り、スポーティライフの実現をめざします。

(2) こどもたちのスポーツ・運動の推進及び部活動の地域連携・地域展開

こどもたちがスポーツ・運動に親しむ環境を整え、楽しみや充足感を得て、健やかな生活を送ることができるよう、学校教育活動やこども会活動などにおいてスポーツ・運動を推進します。学校体育等における取組をはじめ、市内の体育館におけるスポーツ教室の開催、こども会やスポーツ少年団の活動の充実、支援に取り組みます。

また、ICT の活用や、学校・地域との連携を更に強化することで、こどもたちが継続的にスポーツ活動を行う機会を創出し、中学校の部活動の地域連携・地域展開を支えます。

(3) 高齢者のスポーツ・運動の推進

高齢者などの体力が低下している層に対しては、ウォーキングなど低負荷で継続しやすい運動を推進します。

また、高齢者の認知症やフレイルの予防などにつながる健康教室の開催や地域自主活動グループの支援、健康増進につながる取組の情報発信を行い、高齢者のスポーツ・運動の推進を図ります。

■主な取組

ビジネスパーソンや子育て世代へのスポーツ・運動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ○参加しやすいプログラムによるスポーツ教室等の実施 ○親子で参加できるスポーツイベント等の実施 ○「ながら」運動を推進するイベント等の実施 ○競技レベルに応じたスポーツ教室等の実施 ○職場でのスポーツ・運動実施及び啓発 ○通勤時等の自転車の利用促進 ○ICT を活用したウォーキング、ランニング、サイクリングの利用促進 ○市ホームページや SNS を活用した「ながら」運動に関する情報発信 ○自宅でできるスポーツ・運動の情報発信 ○民間の情報サイトを活用したスポーツイベントの情報発信
こどもたちのスポーツ・運動の推進及び部活動の地域連携・地域展開
<ul style="list-style-type: none"> ○こどもが楽しんでスポーツを体験できる教室の実施 ○保護者に向けた講習会の実施 ○スポーツ少年団活動の充実及び支援 ○体力向上に向けた小中学校の取組支援 ○指導者派遣による運動部活動の支援 ○運動中の事故防止の啓発 ○部活動地域連携・地域展開の推進
高齢者のスポーツ・運動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者のニーズに応じたスポーツ教室の実施 ○自主活動グループの育成・支援 ○健康増進を目的とした体操の普及促進 ○スポーツ・運動を通じた健康増進につながる取組の情報発信 ○低負荷で継続しやすい運動の情報発信



(1) 地域のスポーツ機会の創出

市内の体育館やスポーツ施設において、ライフステージに応じたスポーツ教室等を開催し、SNS など様々な媒体を活用して広く発信することで、気軽にスポーツ・運動ができる機会を創出します。

堺市民マラソンなど市民参加型のスポーツ・運動イベントを行い、市民にスポーツ・運動機会を提供します。

また、身近な場所や学校施設等を活用したスポーツ活動を推進します。本市では、「サイクルシティ堺」を掲げており、大和川リバーサイドサイクルライン等を活用したサイクリングを推進することで、スポーツ機会の創出に取り組みます。

(2) 身近にスポーツ・運動に取り組む仕組みの強化

地域におけるスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブの創設や指導者育成などの支援を行います。活動内容などの情報発信を充実させることで、市民の参画機会へとつなげ、地域全体でスポーツ・運動に親しむ環境を構築します。引き続き地域との連携強化を行い、こどもを含む幅広い世代が、継続的にスポーツ活動を行える機会を支えます。

また、地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員の活動や、各種スポーツの普及振興に取り組むスポーツ協会への支援、人材や施設などを有する地域の大学や民間企業との連携を通じて、市民のスポーツ活動の充実及び地域のスポーツ活動団体の育成など、幅広い取組を推進します。

公園等の身近な場所で行うことができるウォーキングを楽しんでいただくため、ウォーキングマップなどの情報を発信します。

(3) アーバンスポーツの推進

東京 2020 オリンピックやパリ 2024 オリンピックで正式種目になったスケートボードやブレイキン等のアーバンスポーツが若年層を中心に、近年人気が高まっています。さらに、アーバンスポーツは気軽に行えるスポーツであるため、アーバンスポーツの推進は若年層のスポーツへの関心の向上や運動意欲の促進が期待できます。

例えば、関西で最大級規模の原池公園スケートボードパークでは、上級者向けのコースだけでなく、初心者でも楽しむことができるコースが設置されているため、誰でも気軽に楽しむことができます。また、大泉緑地には、全国大会等も開催される BMX 競技専用モトクロスコースのサイクルどろんこ広場があります。

こどもたちを含む若年層が気軽に楽しめる体験会や、親子で楽しむことができるイベントの実施など、アーバンスポーツに触れる機会を創出します。

■ 主な取組

地域のスポーツ機会の創出
○身近な体育館等におけるスポーツ教室の実施 ○市民参加型スポーツイベントの実施 ○学校施設を活用したスポーツの推進 ○安全・安心に利用できる施設の維持管理 ○スポーツイベントや施設等の情報発信
身近にスポーツ・運動に取り組む仕組みの強化
○総合型地域スポーツクラブの活動支援 ○スポーツ推進委員の活動支援 ○公園等を活用したスポーツの推進 ○スポーツ関係団体との連携 ○地域の大学や民間企業との連携 ○スポーツ関係団体の情報発信
アーバンスポーツの推進
○トップアスリートによるこども向けアーバンスポーツ教室の実施 ○アーバンスポーツ体験会の実施 ○アーバンスポーツイベントの実施 ○アーバンスポーツに関する情報発信

施策3

多彩なスポーツ活動を通じた交流促進

SDGs



(1) 障害者スポーツの推進

障害者が身近な地域でスポーツ・運動に親しめるよう、健康福祉プラザスポーツセンターを拠点とし、スポーツ関係者や障害福祉関係者との連携のもと、スポーツ・運動を始める機会の提供やその活動を継続するための支援に取り組みます。

また、障害者のスポーツ大会等への参加支援を行い、スポーツに取り組む障害者が日頃の成果を発揮する機会を提供します。

(2) スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成

スポーツを推進するためには、指導者やボランティアの存在が欠かせません。多様化するスポーツのニーズに対応するため、質の高い指導者の育成やマッチング支援を行います。また、全国大会等を契機としたスポーツボランティアの育成を推進するなど、スポーツを支える活動を支援します。あわせて、スポーツ指導者等によるハラスメントの未然防止に向けた理解を深め、より多くの市民が安心してスポーツに参加できる環境を整備します。

(3) 多彩なスポーツ交流の促進

堺市民オリンピックなどの市民参加型のスポーツ大会の開催、誰でも気軽に楽しめるニュースポーツ（モルック、ディスコンなど）の普及促進など、幅広い世代がスポーツを通じて交流を深める機会を提供します。

また、スポーツ大会等において、より多くの市民が観戦、応援できる仕組みを構築します。

■ 主な取組

障害者スポーツの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○障害者スポーツ指導者の養成 ○障害者スポーツ大会等への参加支援 ○健康福祉プラザスポーツセンターの機能強化 ○障害者スポーツに関する情報発信
スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成
<ul style="list-style-type: none"> ○地域のスポーツ指導者の養成 ○スポーツボランティアの育成 ○スポーツ指導者の活躍推進 ○スポーツ指導者への多様性の理解促進
多彩なスポーツ交流の促進
<ul style="list-style-type: none"> ○堺市民オリンピックの実施 ○ニュースポーツの体験会等の実施 ○市民が観戦できるスポーツ大会等の情報発信

本市は、日本最大級の施設規模を誇るJ-GREEN堺をはじめ、南大阪最大規模のアリーナと武道館からなる大浜だいしんアリーナ・だいしん大浜武道館や、本格的な野球設備のあるくら寿司スタジアム堺など、全国大会等にも対応可能なスポーツ環境が整備されています。

安全・安心にスポーツ施設を利用できるように、指定管理者と連携し、計画的かつ効率的な運営及び維持管理を行います。施設規模や特色ある施設機能を活かしたスポーツイベントの開催などにより、大規模スポーツ施設の有効活用を図ります。

また、本市には、ゆかりのある複数のトップレベルチームがあり、それらのチームとの連携を充実させることで、更なるスポーツへの関心向上が期待できます。

本市が誇るスポーツ資源を有効活用し、新たな視点の「スポーツツーリズムの推進」を加え本市におけるスポーツ魅力の向上をめざします。

写真・イラスト等追加予定

(1) スポーツツーリズムの推進

市内のスポーツ施設で開催される大会やイベントを契機とした、国内外の旅行者の増加、観光振興などスポーツツーリズムを推進し、これによる経済の好循環の実現をめざします。

J-GREEN 堺を活用したサッカー日本代表等の公開練習の実施や、大浜だいしんアリーナにおける日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲームを開催します。

また、国内最大規模の国際サイクルロードレース「ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ」の開催や「大阪・関西万博」における「SUMO EXPO2025」で PR した大浜公園相撲場の活用により国内外のスポーツファンを受け入れ、地域魅力の向上をめざします。

(2) ワールドマスタースゲームズ 2027 関西の開催

ワールドマスタースゲームズとは、30 歳以上のスポーツ愛好者なら誰でも参加できる国際総合競技大会です。2027 年 5 月には「ワールドマスタースゲームズ 2027 関西」が開催され、本市では、実施競技の中で最多の人数が参加する、サッカー・フットサル競技が J-GREEN 堺で実施されます。国内参加者だけでなく、世界中からスポーツ愛好者を受け入れ、本市の魅力を積極的に PR し、市内観光の活性化につなげます。

(3) 全国大会等の開催

全国規模の大会等の開催を通じて、本市が誇る大規模スポーツ施設等を最大限に活用します。大浜だいしんアリーナでは、球技や武道の全国大会が開催されます。また、アマチュア相撲の聖地として知られている大浜公園相撲場では、全国学生相撲選手権大会等のアマチュア相撲の大会が開催され、スポーツへの関心向上やシビックプライドを醸成します。また、くら寿司スタジアム堺では、全国高等学校野球選手権大阪大会等を開催することで、高校球児をはじめとした子どもたちの夢と憧れを育みます。

■ 主な取組

スポーツツーリズムの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲームの実施 ○相撲体験の実施 ○ツアー・オブ・ジャパン堺ステージの実施 ○サッカー日本代表等の公開練習の実施
ワールドマスタースゲームズ 2027 関西の開催
<ul style="list-style-type: none"> ○サッカー・フットサル競技の実施
全国大会等の開催
<ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校野球選手権大阪大会の実施 ○武道の全国大会等の実施 ○各種スポーツ大会の実施

(1) ホームゲームの開催

大浜だいしんアリーナでは日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲームを、くら寿司スタジアム堺ではオリックス・バファローズのファーム（2 軍）公式戦を開催し、ホームゲーム等の観戦を通じて、こどもの夢や希望を育みます。

これらのチームに本市をホームタウンの 1 つとするセレッソ大阪やセレッソ大阪ヤンマーレディース等を加えたトップレベルチームを、市民が一丸となって応援することで、シビックプライドの醸成につなげます。

(2) トップレベルチームとの連携による情報発信

本市をホームタウンとするチームの国内リーグ戦などの機会を活かして、全国に向けて本市の PR を行い、都市イメージを高めます。

また、本市スポーツ部の公式 X（旧 Twitter）（アカウント名：@sakai_sports）や民間のスポーツ情報サイト等を活用し、トップレベルチームのホームゲームやスポーツイベント等を本市の魅力として発信します。

(3) 市民交流の促進

トップレベルチームとの連携により、こどもたちへのスポーツ教室や選手との交流イベントを開催します。また、部活動や総合型地域スポーツクラブ等へ指導者を派遣することで、チームと市民の交流を促進し、市民のスポーツへの関心を高めます。

■ 主な取組

ホームゲームの開催
<ul style="list-style-type: none"> ○日本製鉄堺ブレイザーズのホームゲームの実施（再掲） ○オリックス・バファローズのファーム（2 軍）公式戦の実施 ○セレッソ大阪等のホームゲームにおける市民優待デーの実施
トップレベルチームとの連携による情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ○国内トップリーグ戦などの機会を活かした堺市の PR ○地域の交通機関や商業施設との連携によるホームタウンの情報発信 ○民間のスポーツ情報サイト等を活用したホームタウンの魅力発信
市民交流の促進
<ul style="list-style-type: none"> ○市民とトップレベルチームの交流イベントの実施 ○こども向けスポーツ教室の実施 ○部活動やのびのびルームへのスポーツ指導者派遣 ○総合型地域スポーツクラブへのスポーツ指導者派遣



(1) トップアスリートとの交流促進

トップレベルチームに所属する選手や本市出身のトップアスリートと連携したスポーツ教室や交流イベントを開催することで、こどもたちの憧れであるトップアスリートとの交流機会を提供します。

(2) 競技力向上の支援

地域に密着した活動を展開するスポーツ少年団との連携や指導者派遣による運動部活動の支援を通じて、こどもたちがスポーツに打ち込み、成長する機会を提供します。

また、J-GREEN堺を拠点とするJFAアカデミー堺と連携し、スポーツを通じて夢や希望を育み、可能性を発揮して世界で活躍する次世代人材の育成を支援します。

そして、こどもたちがスポーツに対する情熱や意欲を高め、自らを成長させる機会となる国際大会や全国大会への出場支援を行います。

■ 主な取組

トップアスリートとの交流促進
○トップアスリートによるこども向けスポーツ教室の実施
○オリンピックやパラリンピアンとの交流イベントの実施
競技力向上の支援
○JFA アカデミー堺と連携した人材育成
○学生の国際大会及び全国大会への出場支援
○スポーツ少年団活動の充実及び支援（再掲）
○指導者派遣による運動部活動の支援（再掲）

写真・イラスト等追加予定

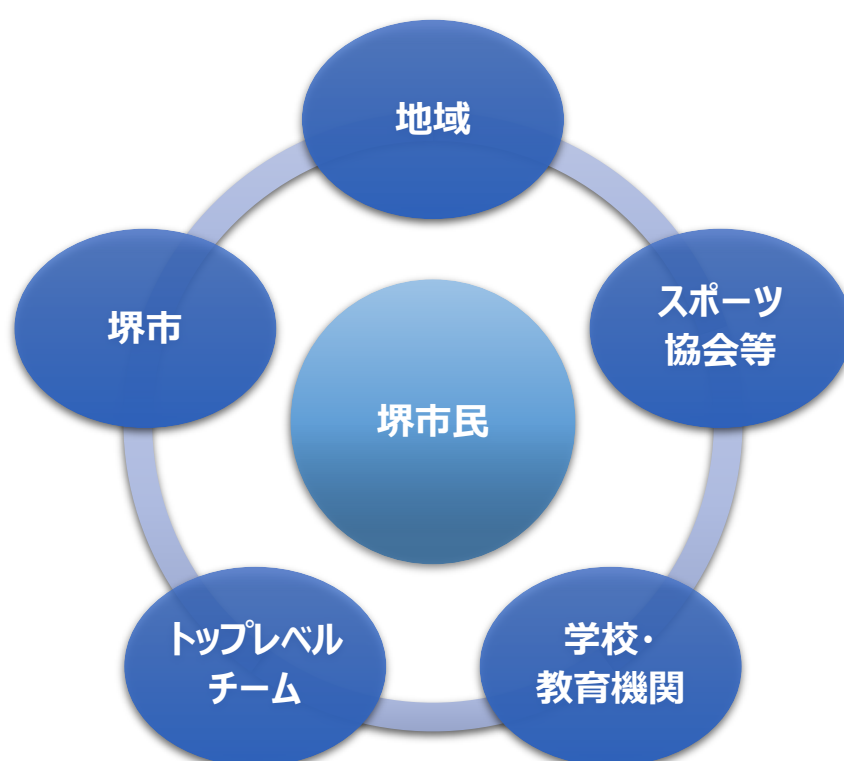
第5章 計画の推進体制

-
- 1 計画の推進
 - 2 計画の点検・評価
-

1 計画の推進

推進体制の構築

本プランで定める目標を達成するため、市民をはじめ、スポーツ推進委員や地域スポーツ団体、各種競技団体、公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団、堺市スポーツ協会、堺市スポーツ少年団、学校等の教育機関、トップレベルチーム、民間企業等と連携・協働することが重要です。各主体が情報を共有し、共通の目標に向かって取り組むための連携体制を強化し、オール堺でプランを推進し、計画の実現をめざします。



2 計画の点検・評価

進行管理と評価

計画の進捗状況を的確に把握し、施策の効果を検証するため、市民のスポーツ・運動習慣者割合や大規模スポーツ施設利用者数などを指標として設定し、定期的に点検・評価を行います。

評価結果は広く市民に公表し、その結果を踏まえて事業内容の見直しや改善を行い、実効性の高い計画推進（PDCAサイクル）に努めます。

第4次堺市スポーツ推進プラン

2026（令和8）年●月発行

発 行 堺市文化観光局スポーツ部スポーツ推進課

〒590-0078 大阪府堺市堺区瓦町 3 番 1 号

電 話：072-228-7437 FAX：072-228-7454

E-MAIL：sposui@city.sakai.lg.jp

配架資料番号：